

# 巻 頭 言

昨年4月にリハ事業団の仕事に着き早いものでもうすぐ1年を迎えます。アッと言う間の気がします。

前職が横浜港の管理者としての国際競争力強化のコンテナ船等の誘致や、市民と港の賑わいをもたらす客船誘致、ふ頭の建設、保安など港に係る業務でした。それから一転して福祉の世界へ。事業団設立以前に担当していたリハ事業の記憶を呼び起こし、各部各課の事業を自分なりに検証しています。

時代の要請や法整備による変化により、当初の構想を着実に実施している事業や大きく様変わりした事業が有ることが分かり、当時を思い起こし色々な思いが交錯しています。

特に発達支援関係については児童や保護者からの要望と、それに対する対応は多岐に渡り、今後も大きな変化を伴うものと思われます。事業団は今年4月には、よこはま港南地域療育センターがオープンし、事業団の職員は500人を超える大世帯となります。

設立25周年からまた一步次の時代に向けた取り組みを行います。時代の要請をどう受け止め、より高度で質の良いサービスを提供できるか、事業団職員としての使命であります。その為には日頃から各自の担当業務の中で改善工夫の余地がないか、より効率的効果的な手法がないか等、そのような目を持って取り組んでいただきたいと思います。

今回、研究紀要第22号の発刊にあたり、これまで蓄積された知識や技術を伝承し発展された実績を基にこの冊子が編集されました。

今後とも、皆さんと共に専門性の高いリハセンターとして発展させていきましょう。

横浜市リハビリテーション事業団

理事長 金 井 良 樹